記者説明会資料

平成 21 年 2 月 19 日
独立行政法人 国民生活センター

注意！圧力鍋の蓋が飛んでやけど

調理後、圧力鍋の蓋が音とともに飛び、中身が飛散して 60 歳代の女性が顔に１ヵ月以上のやけどを負う事故が発生した。事故の原因を調査した結果、構造上の問題が認められたことから、事故の再発を防止するため情報提供する。

１．事故事例

「圧力鍋に２人用のシチューの材料を入れ、ガス台にかけた。圧力がかかった後、数分後火を止めた。しばらくして蓋を開けようとしたが、開かなかったので流し台に鍋を運び、上から水をかけたところ大きな音とともに鍋の蓋が飛んで中身が飛散し、顔に１ヵ月以上のやけどを負った。」

(事故発生年月:2008 年 11 月、受傷者:60 歳代 女性、南関東)

２．事故品の概要

(１) 事故品の概要

圧力鍋は、消費生活用製品安全法の特定製品[注1)]であり、事故品にも PSC マークの表示があった。事故品は直径 16cm のアルミ製の圧力鍋で、取っ手を円周方向に回すと蓋が外れる構造で、気密性を保つため蓋の内側にはパッキンが取付けられていた(写真１)。

表１．事故品の概要

銘柄名・型式	アルミ圧力鍋 16cm・NK-AL16
満水容量	2.2ℓ
製造販売元	株式会社カクセー 〒959-1277 新潟県燕市物流センター2 丁目 15 番地 0120－637271
製造	2004 年 11 月
その他	MADE IN CHINA PSC マーク・SG マーク[注2)]

注１：消費生活用製品安全法により、特に危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品（家庭用の圧力鍋を含む）を「特定製品」として指定し、国で定めた基準に適合した旨の、PSC マークを表示していないものは、その販売又は販売目的での陳列を禁止している。

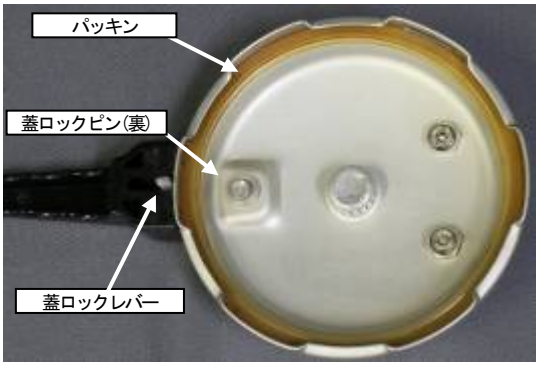
注２：(財)製品安全協会では、製品の安全性に関する認定基準を作成し、その基準に合格した製品に SG マークを表示している。

写真 1. 事故品の構造

a) 蓋が閉まった位置

b) 蓋が開く位置

c) 蓋の裏側



d) 鍋底の刻印(製造年月)

(2) 蓋の開け方

取扱説明書には以下のように蓋の開け方が記載されている。

(調理後の蓋の開け方)

・通常　　：火を止めた後、おもりを引き上げ鍋内部の蒸気を完全に排出し、蓋ロックピンが下がった事を確認してから、おもりを抜き、蓋をスライドさせて開けて下さい。

・自然冷却：火を止めた後、圧力が下がるまで 10～15 分そのままにしておきます。火を止めると徐々に温度が下がって約 10～15 分位で鍋内の圧力と外気圧が同じになります。その間も調理は行われていますので、必ず急冷しなくてはならないもの以外は自然冷却にして下さい。

・急冷　　：煮過ぎや茹で過ぎを防ぐために行ったり、調理中や調理後に急いで蓋を開けたい時や蓋をスライドさせた時に取っ手の動きが重たく感じられた場合にします。鍋を水平に置き、蓋の上から流水を約 1 分間位かけてください。

1. 自然冷却または急冷の後、必ず蓋ロックピンが下がっていることを確認する。
2. 鍋本体を水平に置き、鍋つまみ等を使い火傷に注意して、おもりを軽く傾けしばらく保持し、圧力調整ノズルから蒸気が出ない事を確認してください。

３．テスト結果

（1）水冷による影響

事故発生時、流し台に鍋を運び、上から水をかけたときに蓋が外れていることから、圧力調整装置が作動した後、流し台で蓋に水をかけたが、蓋が外れることはなかった。

（2）開蓋試験

1) 消費生活用製品安全法を参考にした試験

消費生活用製品安全法の「家庭用圧力なべ及び圧力がま」の技術基準を参考にして、内圧が 9.8kPa [注3)]のときに、取っ手の先端(写真 1.b 矢印方向)に 78.5N(8.0kgf)[注4)]の力を加えたところ、蓋が外れることが確認された。

しかし、事故時よりも内圧が低いためか事故品のように熱湯が飛散することはなかった。

注３：kPa(キロパスカル)　圧力の単位で 1kPa=0.01kgf／cm²
注４：N(ニュートン)　力の単位で 9.8N=1kgf

2) 事故時を想定した試験

事故時の状況から、1)より内圧が高いとき蓋が開くかを確認するため、圧力調整装置が作動する内圧 80kPa の半分の圧力 40kPa のとき、取っ手の先端に１）と同様の力 78.5N(8.0kgf)を加えた場合には蓋が開くことはなかった。しかし、110N(11.2kgf)の力を加えた場合には、蓋が回転して外れ周囲に熱湯が飛び散った(写真 2)。

事故品は内圧が高いときでも取っ手の先端に大きな力がかかると蓋が開き、今回の事故のような状況が起きることが確認できた。

なお、2007 年 4 月製の同型品で同様のテストを行ったところ、蓋が外れることはなかった。

写真 2. 蓋が外れ熱湯が周囲に飛び散る様子

（3）蓋が外れた原因について

蓋のロック機構が作動している状態にもかかわらず、蓋が外れた原因を調べた結果、内圧が高いときに蓋が開かないようにする蓋ロックレバーの引っかかりが浅いため､取っ手に力を加えると、蓋ロックレバーが外れることがわかった(写真 3,4、図 1)。

写真 3. 蓋ロックレバーの位置と鍋側の溝

a) 蓋ロックレバーの位置　　b) 鍋側の溝

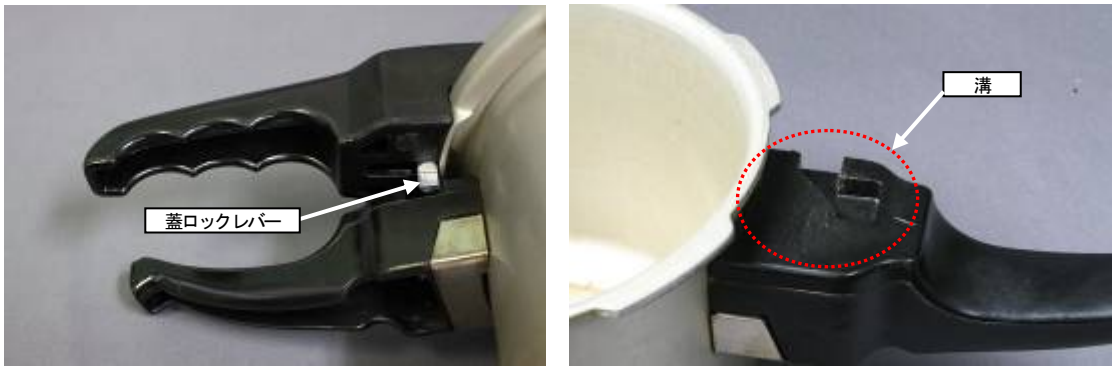


図 1. 鍋を上から見たときの溝と蓋ロックレバーの動き

a) 圧力がかかっていないとき　　b) 圧力がかかっているとき

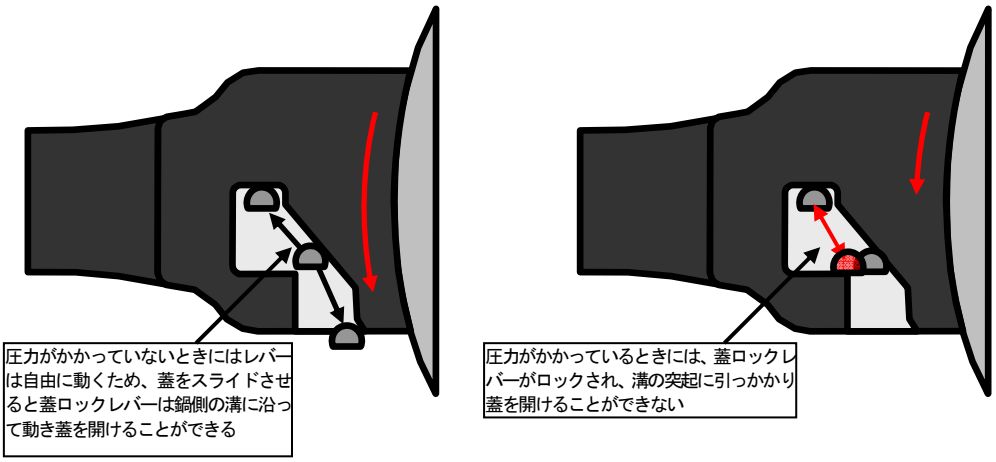
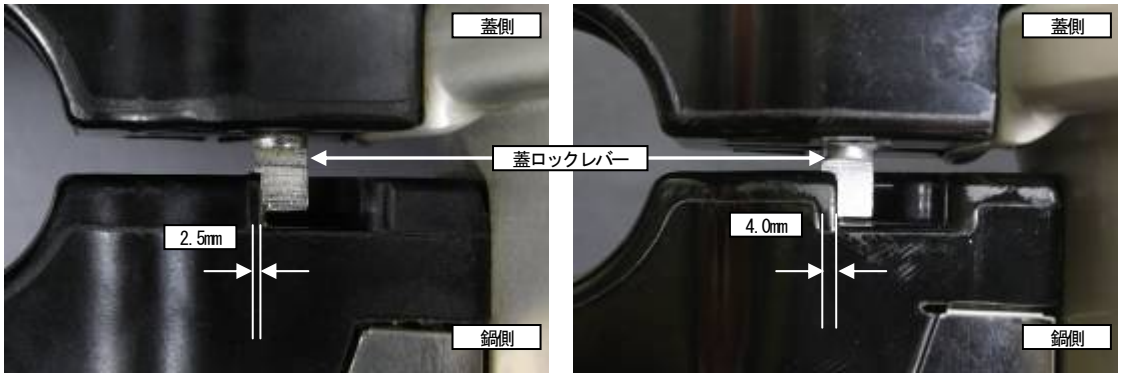


写真 4. 蓋ロックレバーの位置と鍋側の溝の引っかかり

a) 事故品　　b) 事故同型品



（4）蓋ロック機構の作動状態のわかりやすさ

内圧が高く蓋が開かない状態であることを示す表示(蓋ロックピンの上昇)がわかりにくかった（図2、写真5）。

図2. 蓋ロックピンの構造

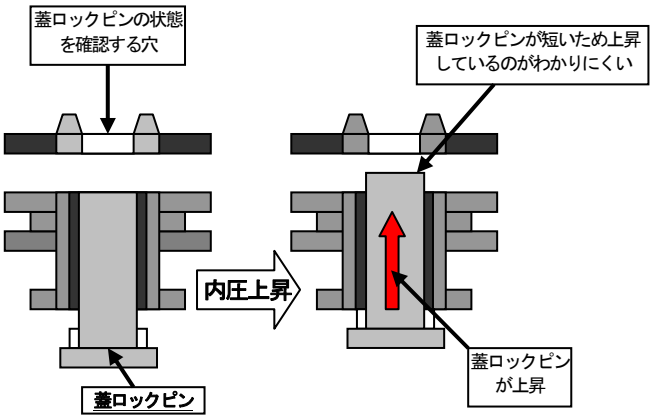


写真5. 蓋ロックピンが上がった状態（ロック状態）

４．消費者へのアドバイス

PIO-NET(全国消費生活情報ネットワーク・システム)には、事故品と同じ型式の圧力鍋の危害・危険事例はないものの(2009 年１月末現在)、㈱カクセーの 2004 年 11 月と鍋底に刻印された圧力鍋(NK-AL16)は、テスト結果のとおり、蓋ロックピンや蓋ロックレバーの構造に問題があるため、内圧が高いことがわかりにくく、また、内圧が高い状態で蓋を開けようとすると蓋が外れて中身が飛散し、やけどを負うおそれがあるので使用を見合わせること。

５．事業者の対応

事業者から以下の対応を行うと回答があった。

「２００４年１１月製造ロットは構造上に問題があり、また事故品だけでなく、ロット全数に問題がある様な内容ですが、当社は国の基準による検査を受け合格したのちに輸入をしております。この検査は６ヶ月毎に受けて合格しております。入荷の際は毎回ＳＧ認定検査を受け合格しております。さらに全数検品をし、安全基準に適合したものにＳＧシールを付して販売しております。当社には事故品と同じ型式の圧力鍋の事故事例がないことから、構造上の問題があったのは事故品のみで、他のものに関しては正常品と認識しております。安全に使用して頂くためにホームページ上に「安全な圧力鍋使用方法」を掲載しております。安全な使用方法に従ってご使用いただければ安心してご使用できます。このように説明するとともに注意喚起を致します。

この件についての問い合わせに関しては、メール、フリーコールで対応致します。

ホームページアドレス	http://www.kakusee.co.jp
メールアドレス	kakusee@tsubame.or.jp
フリーコール	0120-63-7271

受付時間：平日（月曜日～金曜日）午前９：００～午後５：００」

○情報提供先

内閣府　国民生活局　総務課国民生活情報室
経済産業省　商務流通グループ　消費経済政策課
経済産業省　商務流通グループ　製品安全課

本件問い合わせ先
商品テスト部：042-758-3165